

昭和の日

4月29日は、昭和の日です。

この日は、元々は昭和天皇の誕生日でしたが、1989年（昭和64年）1月7日昭和天皇が崩御されたことに伴い、天皇誕生日が今上天皇の誕生日である12月23日に移されることになりました。しかし、4月29日はゴールデンウィーク中の大事な休みとして定着していましたので、従来の天皇誕生日は「みどりの日」と改めた上で祝日として存続させることになりました。

その後、2005年（平成17年）の祝日法の改正により、2007年（平成19年）以降、それまでの「みどりの日」は5月4日に移動させると共に、改めて4月29日を「昭和の日」とすることになったものです。

さて、この「昭和の日」ですが、国民の祝日に関する法律で「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」日としています。

昭和という年号は、四書五経の一つ書経堯典の「百姓昭明、協和萬邦」の中から「昭」と「和」の2文字を取ったもので、「国民の平和及び世界各国の共存繁栄を願う」との意味が込められています。考案は漢学者の吉田増蔵という人ですが、彼の願いにもかかわらず、昭和は、戦争による破壊と焦土からの復興という、まさに激動の時代となりました。

昭和という時代は1926年に始まり1989年に終わりを告げます。この64年間を振り返ると前期と後期に分けることができます。

即ち、1945年までの前期は、大日本帝国の時代であり、戦争の時代でした。一方、後期は、太平洋戦争に敗れ、焦土と化した国土の復興の時代でした。また、新しい憲法の下で民主国家としての新たなスタートを切りましたが、海外では朝鮮戦争が勃発し、世界は厳しい冷戦の時代に入りました。そうした中で我が国は、経済的繁栄の時代を迎えることとなります。

私の父は大正時代に生まれ、昭和という時代の中で成長し、やがて軍隊に召集されて満州に渡りました。終戦直前に除隊して帰国したようですが、その後は大変苦勞して一家を支えました。

父や母の世代は皆、戦争に巻き込まれ、戦後は日本の復興に力を尽くしてきました。私の父や母を含め、私の周りにいた多くの人々は、日本の高度経済成長の恩恵にはさほど浴すことはありませんでしたが、一生懸命に働き、子どもを育て社会に送り出し、その果たすべき役割をしっかりと果たしたと思っています。

私は昭和に生まれ、昭和に育ちました。日本の高度経済成長の恩恵を受けて育ったように思います。「努力すれば報われる」と信じることが出来た幸せな時代でした。その活気溢れる繁栄した日本もバブルに踊らされた狂乱の舞台も、昭和の終演と共に日ならずして崩壊してしまいます。

昭和天皇が崩御された1989年11月、ベルリンの壁が崩壊し、東欧革命が起きました。それは、明るい時代の幕開けのように感じました。しかし、その後も、アメリカ同時多発テロやイラク戦争等、世界の各地で紛争やテロは絶えません。戦争の20世紀から平和の21世紀へというのは、誠に儂い夢でした。それでも、人々の多くは、夢を語り、明日に向かって努力を怠りません。

人間の営みは、かくも愚かで愛おしいものです。そして、その人間達が新しい時代を作っていくのです。だからこそ、私たちは、過去の時代を振り返る必要があるのです。

私たちが過去の時代を振り返るのは、過去を懐かしみ、過去の時代に後戻りするためではありません。過去に学び、過去から教訓を得ることは、新しい時代を作るための力になり、新しい道を捜す手だてとなるでしょう。

(塾頭 吉田 洋一)